

# No.37 ドナルド・ジャッド —無題—

Donaldo Judd

北川フラムさんのコラム / 1995 (平成7) 年 9月15日付 立川市市報記事より

ドナルド・ジャッドの作品は今年の8月、暑いさなか、彼のアシスタントが来日して設置された。109番目の最後の作品だ。長さ11㍍高さ1.5㍍のコンクリートの壁に、内部が塗られた7個の箱が厳密に置かれている。

ジャッドは物質の形をこれ以上はないという基本形にし、その美しさを追及した作家だったが、去年2月に亡くなった。

1年も経って、設置されたのには理由がある。ジャッドの作品の魅力はこの厳密さにあるのだが、病床での設計後、建築の現場で、彼の考えた壁は無くなってしまった。設計変更するにも作家が亡くなっている。1年後にやっと、彼が想定した壁が、皆の努力のうえに出来上がったというわけだ。ファーレ立川のこの作品が彼の遺作となった。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現: UR 都市機構) 「ミニ通信」より

最初に然るべき哲学的流儀にのっとして始めるならば、人は統一体であり、また芸術作品とは、長い複雑なプロセスを経た、同様な統一体である。

芸術作品の統一性が人間のそれと同質であり、同様の多様性また不完全さ、依然として生きようとする同様の努力を備えているならば、芸術とは特殊な経験でも知識でも、ましてや感覚でもない……

あらゆる経験は大なり小なり経験を伴う。

あらゆる思考は感覚を伴う。

あらゆる感覚は経験に基づき、

経験は思考を伴うのである。